

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/久保田勉

“異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌”

## 「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第21回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第6弾」が【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の真相と現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



### JR東日本労政の回顧と展望・・・その3 「ヤルヤル詐欺!」

私が国鉄清算事業団の初代労務課長に転じて4～5年後のことだったと記憶するが、JR初代東京駅長を務め本社取締役まで栄進した木下秀彰氏のお祝い事に幹事から誘われて出席、会食したことがある。・・・幹事も、そして20名ほどの出席者も東京地区中心のいわゆる大現場長経験者ばかりという錚々たるメンバーだった。・・・私が、「ところで東は革マル問題をどうするんだ。松田さんは革マルと心中する気かな？」と日頃の懸念を話題にしたところ、一人ならず、「松田さんは絶対やりますよ！松田さんは『オレが今の状態をいいと思っている訳がわけがないだろう。時期を見て必ず排除する！』とよく言ってますよ」と彼らは口々にそう言ったのだ。その時は半信半疑で別れたのだが、その後もずっと労政に変化の兆しは感じられなかった。そして「そうかやっぱりヤルヤル詐欺だったか」と納得したのは、鈴木均著『JR東日本民主化・新潟の闘い「何するものぞ！」』を読んだ時である。関係者の大方が信じ期待した松崎引退の噂が裏切られた東労組定期大会直後、ホテル・ニューオータニで鈴木氏と会談した松田社長は、「とにかく、私としては、松崎をこのままにしているとは思わない。だからといって、いつまでもというわけにはいかない。過激派を抜けてはいないよ。あれは転向なんてしていない。わかっているんだ。松崎支配の現状を変えるには現状をよく認識して打つ手は確実にうっていくこと。会社がやるべき事、皆さんがやるべき事、それぞれが確実に行なう。それを組み合わせていくことだな」と言っている。これは、東京地区の「大現場長」たちが松田社長から聞いていた言葉と全く同趣旨である。・・・

そして以前、松田氏は、雑誌記者の取材にこうも答えている。【松田；松崎委員長が革マルかどうかは関係ない。それがマイナスというのであれば別だが今のところ何もない。それより何万人もの動労を一糸乱れず引っ張っていった人間はいない。今になって切れという方がおかしい】『日経ビジネス』誌の取材に応じた平成3年という年は、天童の組合行事に際し松崎に呼びつけられた松田副社長が、飛行機で駆けつけリップサービスした年の翌年である。そして平成5年、松田副社長はめでたく社長の椅子に座った。

その松田氏は、日経新聞「私の履歴書」欄にも寄稿した。・・・特に問題だと思ったのは、「国鉄時代、私は常に主力組合であった国労と真っ向から対峙した。当然、私への風当たりはきつくなり、それは家族にも及んでいた。・・・当時住んでいた与野の自宅ではプロパンの周辺に幾本ものマッチ棒がばらまかれていた。ある時、長女の息子が極度に水を怖がることを知った。理由を尋ねると近隣のプールで指導員とおぼしき人物に無理やり顔を水に押しつけられたという。妻は40歳を過ぎたころに舌の動きをつかさどる筋肉がまひするという病気に襲われた。13年しか持たないといわれた妻は20年も頑張った。一中略一土曜の夕刻、薄暗い空の下で始めた喪主のあいさつは当初、淡々と終わるつもりだった。しかし、「郁子を追い込んだ連中を私は一生許さない」と叫ぶ自分がいた。】

この文脈で素直に読むと国労関係者が、松田氏の自宅の「プロパンガスの周辺に幾本ものマッチ棒バラマキ」事件や、お孫さんの顔をプールの水に「無理やり押しつけ」事件などの非道な事件の犯人だということになる。本当にそうだろうか？！私は過去の職業柄、国労という組織の性格をよく知っている。陰湿な集団では絶対ない。別に国労の肩を持つわけではないが、松田氏の犯人＝国労説には同意しかねる。・・・案の定、国労は日経新聞社などに抗議したそうだが、その後の詳細は把握していない。

【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌（高木書房）P.196～P.199】